

発行
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018
札幌市中央区北 18 条
西 15 丁目 3-19 安藤方
電話・FAX 011-556-8834
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第 95 号 2018.9.15
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会
東京事務所
〒107-0052
東京都港区赤坂
9-6-29-309
音響計画(株) 霜田気付
電話 03-6804-1058
FAX 03-6804-6058



第 32 回定例総会と懇親会にお越しく下さい



会場 豊平館 (中島公園内)

日時 2018 年 11 月 11 日 (日)

16:00~ 総会 1F 下の広間

17:30~ 懇親会 2F 広間



総会: 入場には入場券が必要(入り口でポ文協の係りの者が手渡します)

懇親会: 開場17時(その前に来て館内を見学する場合は入場料 300 円が必要です)



今回は初めての試みとして、札幌市の国指定文化財である豊平館で総会と懇親会を行います。豊平館は明治 12 年に開拓使によって建てられた本格的な洋式ホテルですが、いまは市民に開放されています。美しいたたずまいと華麗な内装が魅力的です。

1階「下の広間」で総会のあと、2階「広間」で恒例のパーティを行います。

参加費は無料ですが、各自食べ物または飲み物を一品持参する持ち寄り(ポットラック)方式とします。手作りケーキからコンビニのおにぎりまで何でも歓迎です。同じテーブルに並べて誰でも自由に取れる形式にしましょう。会員以外の方の参加も歓迎します。

会場のピアノを利用して、歌、演奏、合唱、ダンスなど、いくつかの楽しいパフォーマンスを計画しています。飛び入りも歓迎します(右下の写真は 2014 年の「午後のポエジア」の様子で、イメージです)。

ポーランドと日本を中心に、国境を越えた国際的な文化交流の場となることを期待しています。みなさまのご協力をお願いします。

ポーランド独立回復
百周年の記念日に
豊平館で手作りパーティ

どなたも入場無料
ポットラック式パーティ
(一品持ち寄り)



ポットラック式パーティとは

サンドイッチ、ケーキ、クッキー、ピザ、サラダ、くだもの、お寿司、おにぎり、海苔巻き、ビール、ワイン(栓抜きつき)、お酒など何でも一品を選んで、一人前よりも少しだけ多めに用意下さい。なお、多少のソフトドリンクとオードブルは協会が用意します。



発行
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018
札幌市中央区北 18 条
西 15 丁目 3-19 安藤方
電話・FAX 011-556-8834
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第 96 号 2019.1.31
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会

東京事務所
〒107-0052
東京都港区赤坂
9-6-29-309
音響計画(株) 霜田気付
電話 03-6804-1058
FAX 03-6804-6058

第 32 回定例総会と懇親会(2018.11.11 豊平館)報告

2018 年 11 月 11 日(日)ポーランド独立回復百周年記念日に第 32 回定例総会と懇親会が開かれました。初めての試みとして、札幌市の国指定文化財である中島公園の豊平館を会場としました。この建物は明治 12 年に開拓使によって建てられた本格的洋式ホテル・迎賓会として市民に親しまれてきました。現在は文化財として保護される一方、市民にも広く開放されており、北海道とポーランドの国際的文化交流の場にふさわしい会場といえます。

定例総会は 16 時から 1 階「下の広間」で開催され、会員 25 人が参加しました。2018 年度(2017.9-2018.8)の多彩な活動の報告・総括のあと、同年度の収支決算報告、2019 年度の役員・活動計画・予算(案)などが審議・決定されました。最後に安藤会長から、長年役員等として会の運営に貢献された斎田道子さん、富山信夫さん、灰谷洋子さんを名誉会員に推挙したいとの提案があり、満場一致で承認されました(詳細は POLE96-1p.1-3 を参照)。

17 時 30 分から 2 階の「広間」に会場を移し、ジェプカ・ラファウさん、熊谷敬子さんの司会でポットラック(一品持ち寄り)方式の**懇親会**が始まりました。参加者は日本人 40 人、ポーランド人とその家族 21 人の合計 61 人に上りました。

安藤厚会長のはじめの挨拶のあと、ポーランド広報文化センター所長のメッセージが安藤さん代読、ジェプカさん翻訳で披露され、井上紘一さんの乾杯で祝宴に入りました。

ポットラック(一品持ち寄り)方式

初めての試みとしてこの方式が提案されたとき、調理に手間がかかるので参加者が少なくなるのではないかと、食べ物に偏るのではないかなど、いろいろ心配されましたが、フタをあけてみると参加者は例年より格段に多く、食事・飲み物のバランスも申し分ないという結果になりました。ボランティアで基本となるオードブルを何人分かまとめて調理・運搬してくださった方もありました。事前にお知らせい

ただいたリストをみると、クッキー、おかき、フライドポテト、チキン、サーモンサラダ、パンケーキ、お寿司など多彩で、またワイン、お酒、ソフトドリンクなどがたくさん提供されました。

パフォーマンス

懇親会では「会場のピアノを利用して、歌、演奏、合唱、ダンスなど、いくつかの楽しいパフォーマンスを計画しています。飛び入りも歓迎します」と呼びかけたところ、プロ級のミュージカルパフォーマンスから飛び入りの演奏まで、ピアノを中心に多彩で楽しい出し物が提供されました。

☆サクソフォン・ピアノ・朗読(松山敏・鷺見健・小林 暁子) ショパンの歌曲「願い」「ぼくの愛しい人」

☆ピアノ演奏(富士文浩)「惜春鳥」(J・A・シーザー作曲、富士文浩編曲、寺山修司作詞)

☆スライドショー(檜本善太「POLAND 2016」、井上 紘一「国際プロニスワフ・ピウスツキシンポジウム」)

☆フォークダンス(札幌フォークダンスクラブ:小川真生・富樫悦子・富田幸子・松橋真弓)

☆みんなで歌おう(マズル・ミハウほか全参加者・伴奏 安藤むつみ)「雪と虹のバラード」「翼をください」「ポーランド国歌」

フォークダンスは、これまで何回か話題に上り期待もされていましたが、なかなか実行できませんでした。今回「札幌フォークダンスクラブ」の全面的な





ご協力によりようやく実現しました=写真上=。ポーランドの方々、特にお子さんたちは大喜びで、次回からはもう少し時間をとってより多くの方々に参加していただきたいと感じました。

「みんなで歌おう」=写真右下=でも多くの参加者が楽しそうに歌っておられました。ポーランドのみなさんの先導による恒例の、元気で勇ましいポーランド国歌も参加者の喝采をあげました。

スライドショーは、いずれも貴重なもので、画像のクオリティーが抜群でした。時間の関係で、音楽パフォーマンスの合間に会場の一角で希望者を集めて行うという昨年の創立 30 周年記念祝賀会と同じ形式となり、しかも時間が足りなくなって、おしまいの方を切り上げていただくこととなり、まことに申し訳なく思っています。改めてゆっくり鑑賞できる機会を作りたいと思います(協会 HP をご参照ください)。

豊平館での開催もポットラック方式のパーティー

もポ文協としては初めてのことでしたが、さいわい楽しく順調に終わることができました。成功の要因は、豊平館のもつ豪華で重厚な雰囲気、パフォーマンスを買って出てくださいました参加者の積極的な姿勢、お金をかけずに食事や飲み物を楽しめるポットラック方式の仕掛けなどいろいろ挙げられます。懇親会の終了後、撤収作業のために残された時間はきっかり 30 分だけでどうなるかと心配されましたが、全員の協力でたちまち元のきれいな状態にもどしてしまい、文化財・豊平館の保護には協力できたかと安堵しています。

今回の催しを通して、自分たちのするべきことを自分の判断で即座に実行するポ文協会員のクオリティーの高さを感じました。プログラムにお名前が載っているみなさまだけでなく、参加者すべてのご協力に心からお礼申し上げます。

(実行責任者・事務局長・副会長 小笠原正明、
写真 松山莞太、尾形秀芳)



独立回復 100 周年記念日(2018.11.11)行事

帆船ダル・ムウォージェジ号大阪港寄港

2018 年 5 月 20 日グディニヤを發ち 2019 年 3 月まで独立回復 100 周年記念世界一周航海中のポーランド帆船ダル・ムウォージェジ Dar Młodzieży 号が 11 月 11 日(日)大阪港に寄港(天保山岸壁、14 日～中央突堤北岸壁)、吉村洋文大阪市長らが出席して盛大な歓迎式典が催され、連日一般公開を行い、16 日(金)サンフランシスコへ出港しました。

同号は(戒厳令布告直前の)1981 年 11 月にグダニスク造船所で進水。'83 大阪世界帆船まつりと Sail Osaka '97 に参加、97 年には香港～沖縄、鹿児島～大阪の帆走レースで総合優勝を遂げました。当時を記憶しているファンも多いようです。



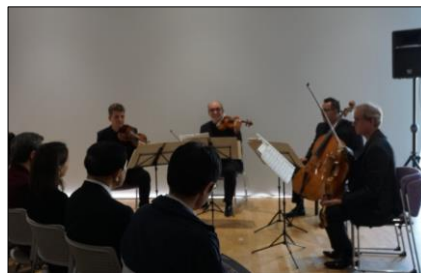
今回は、全国公募で選ばれた青年 400

名と同号が所属する海事大学などの学生・生徒 600 名が 6 交代で乗組み、ダカール、ケープタウン、ジャカルタ、シンガポール、香港、大阪、ロスアンジェルス、パナマ(カトリック教会のワールドユースデーに参加)など計 18 カ国 22 港に寄港します。

シレジア弦楽四重奏団コンサート

独立回復 100 周年の節目の日に、ワルシャワのポーランド音楽出版会は国内 11 都市・国外 11 都市(欧州、ニューヨーク、シカゴ、メルボルンのほか、アジアでは唯一、東京)で記念コンサートを催しました。

東京会場となったすみだ北斎美術館は、今後クラクフの日本美術技術博物館マンガとの協力関係を構築していく可能性があるそうです。



《2018 総会・懇親会》F.ショパンの 17 の歌曲 Op.74 (初版 1859) より
 ピアノ 鷺見健, 朗読 小林暁子, サクソフォン 松山敏
 逐語訳・語注 栗原成郎



願い Życzenie (作曲 1830)

詞 ステファン・ヴィトヴィツキ Stefan Witwicki (1801-47)

もしわたしが空の太陽であるなら
 あなたのためにだけしか輝かない
 川の上にも、森の上にも輝かない。
 しかしあらゆる時を超えて輝く
 あなたの窓辺で、そしてあなたの為にだけ
 もしもわが身を太陽に変えることができたなら。

Gdybym ja była słoneczkiem na niebie,
 Nie świeciłabym jak tylko dla ciebie.
 Ani na wody, ani na lasy:
 Ale przez wszystkie czasy,
 Pod twém okienkiem, i tylko dla ciebie,
 Gdybym w słoneczko mogła zmienić siebie.

もしもわたしが[あの]美しい森の小鳥であるならば
 わたしが歌いたいのはあなたのお国においてだけ
 川の上でも、森の上でもない。
 しかしあらゆる時を超えて歌いたい
 あなたの窓辺で、そしてあなたの為にだけ…
 どうしてわたしはわが身を小鳥に変えることができ
 ないのかしら？

Gdybym ja była ptaszkiem w pięknym [z
 tego] gaju,
 Tylkobym w twoim chciała śpiewać kraju.
 Ani na wody, ani na lasy:
 Ale przez wszystkie czasy,
 Pod twém okienkiem, i tylko dla ciebie...
 Czemuż nie mogę w ptaszka zmienić siebie?

[https://pl.wikisource.org/wiki/%C5%BByczenie_\(Witwicki\)](https://pl.wikisource.org/wiki/%C5%BByczenie_(Witwicki))

ぼくの愛しい人 ^{いと}Moja pieszczotka (作曲 1837?)

詞 アダム・ミツキェヴィチ Adam Mickiewicz (1798-1855)

ぼくの愛しい人は、ご機嫌のよい時は
 小鳥がさえずるように おしゃべりし 甘くささやき
 はじめる
 あまりにも優しく甘くささやき おしゃべりするので
 一言も聞きのがしたくなくて
 話をささげる気持ちになれず 答える気にもなれない
 ただ耳を傾けて聴いて、聴いて、聴いていたい！

Moja pieszczotka, gdy w wesolej chwili
 Pocznie szczebiotać i kwilić i gruchać,
 Tak mile grucha, szczebioce i kwili,
 Że nie chcąc słówka żadnego postradać,
 Nie śmiem przerywać, nie śmiem
 odpowiadać,
 I tylko chciałbym słuchać, słuchać, słuchać!

だが(彼女の)瞳が燃え輝いたとき 生命(いのち)に
 あふれた言葉が
 頬をいっそう赤く染めはじめ
 真珠の歯が 首飾りに並ぶように 白く光る…
 ああ！ その時には思い切って瞳の中を覗き込み
 唇めがけて突進する もう(言葉など)聴く必要はない
 ただキス、キス、キスしたいだけ！

Lecz mowy żywość gdy oczki zapali
 I pocznie mocniej jagody różować,
 Perłowe ząbki błysną wśród koralu...
 Ach! wtenczas śmielej w oczęta spoglądam,
 Usta pomykam i słuchać nie żądam,
 Tylko całować, całować, całować!

Odessa, 1825.

https://pl.wikisource.org/wiki/Do_D..._D...

〈語注〉[Witwicki] słoneczko は słońce「太陽」の愛称形で「お陽様」、nie は否定辞、ani...ani は neither...nor、「美しい森の」のヴァリエントは「あの森の」「あの」は「この世ならぬ」を含意。(日本でも近藤朔風訳詞「乙女のねがい」が愛唱された)[Mickiewicz] szczebiotać (小鳥が) さえずる, kwilić (小鳥が) ピイピイ鳴く, gruchać (鳩が) クックツと鳴く: 小鳥の囀り、歌を女性のおしゃべりに転じた表現, mowy (言葉の) は mowa (言葉) の所有関係を表す単数生格で変則的に żywość の前に置かれたもの, usta (口、唇) は複数対格 (acc. pl.) で方向をあらわす対格 (やや無理な表現) と思われる。祖国ポーランドは POLSKA で文法上は女性形ですので、詩には隠された意味があるかも知れません。